

オートファジー国際学会に参加して

M2 若林康介

私は、2012年10月28日-11月1日に沖縄で開催された第6回オートファジー国際学会でポスターを発表させていただきました。国際学会という事で、すべての発表は英語で行われました。今回の学会では、病態、免疫、神経、がん、発生、加齢など多様なフィールドにおいてオートファジーがどう働くか、どう制御されているか、といった発表がありました。

自分自身のテーマに近い研究内容では、ミトコンドリアのオートファジーに関わる事が知られるPARKINが、ミトコンドリアのみならず、病原体へユビキチンをリクルートする事でオートファジーを制御している、といった発表が印象的でした。片言の英語での質問になりましたが、discussionを交わす事ができました。と同時に、研究室のモットーである、「一流の研究をしよう」を実践するには、英会話が必要不可欠である事を実感しました。

夜のBanquetでは泡盛を片手に沖縄料理に舌鼓をうちながら、他の参加者と交流を深めました。会場への移動の際に、たまたま乗り合わせたバス内でも隣の方とオートファジーのどんな研究をしているかといった会話もあり、学会期間中は愉しく有意義に過ごす事ができました。

その他にも当研究室に在籍していた、現在は沖縄科学技術大学院大学の准教授、石川さんに大学内を案内していただきました。景色が良く、設備も充実していて研究に没頭するには素晴らしい環境でした。

今回の学会では、論文でよく参考にしている先生も多く招かれており、その講演内容も愉しめるもので、世界のオートファジー研究の最前線に触れている事を感じ、今の研究に対するモチベーションも上がりました。この経験を無駄にする事なく、得た成果を自身の研究内容の発展につなげていきたいです。このような機会を与えてくださった事に感謝します。ありがとうございました。

